

# 大阪大学図書館報

Vol.27 No.4 Mar. 1994 (平成6年) 通巻113号

## 目次

- |  |       |
|--|-------|
| ○ベルゲン大学ウィトゲンシュタイン・<br>アーカイブズ(WAB)を訪問して | ○会議   |
| ○法学部所蔵日本近代法史関係資料について                   | ○報告   |
| ○国際交流事業(中国訪問)に参加して                     | ○お知らせ |
| ○教官著作寄贈図書                              | ○日誌   |
|  | ○人事   |

## ベルゲン大学ウィトゲンシュタイン・アーカイブズ (WAB)を訪問して

奥 雅 博

成田、ストックホルムと乗り継いで、12名ほどの乗客を乗せたプロペラ機の夜間飛行でベルゲンに降り立ったのは今年の11月9日である。ターンテーブルで荷物を待つのは私一人、外にでると初対面の Claus Huitfeldt が私の名前を書いた紙を掲げて待っていてくれた。3週間にわたる WAB 訪問はこうして始まった。このことについては情報知識学会のニューズレターにも記したので、ここではよりざっくりばらんに記してみたい。

WAB はウィトゲンシュタインの遺稿のデータベースを作成し、それに関連するソフトウェアの開発を行っているベルゲン大学文学部附属の時限プロジェクトである。私はウィトゲンシュタインを研究の対象としているが、彼の遺稿をマイクロフィルムからコピーをとり読んでいるうちに、データベース化の作業量の見積もり、問題点の洗い出しをする試行的研究を思い立ち、文部省科学研究費の交付を受け、研究を進める過程で WAB の存在を知り、連絡をとり、訪問することにした。旅費の手当もノルウェーの方が迅速でベルゲン大学の世話になった。随時申請で決定まで2カ月という速さであった。

WAB は 1997 年末までに約 2 万ページにのぼるウィトゲンシュタインの手書き原稿、タイプ原稿の転記を予定している。遺稿管理人の承認を得ており、オックスフォード大学出版会より CD-ROM を市販する計画も進行中なので、WAB との共同研究の形をとるのが現実的である。これの打ち合わせと、今のところ持ち出し禁止ながら WAB 内で利用可能な WAB の成果を検討してみることが目的であった。また、遺稿管理人の一人であるピーター・ウィンチが視察に来るので、私の

日程を調整し彼と11年ぶりに再会することにした。その結果、同じ日に彼と共に講演を行うことになった。

WABはベルゲンの中心を見おろす南側の丘、大学関係の建物が入り乱れる中の一棟、人文科学計算センター等、言語学科やスカンジナビア語科のプロジェクトが占める建物の5階にある。所長のClausは哲学科の出身だが今では情報科学者で、人文社会科学の標準書式を設定する研究であるText Encoding InitiativeでオルターナティブとしてのMulti-Element Code Systemの推進者である。というより、加除訂正、削除、移動等の指示を複雑に含むウィトゲンシュタインの遺稿の転記を事例としてMECSが構築・改良されてきている。所員は一時的であるが6名に増えており、所長以外は外国人、即ちセクレタリーがイギリス人、転記者がイタリア人、ドイツ人、オーストリア人、イギリス人とさまざまで皆英語とドイツ語が自由につかえる。WABのworking languageは英語と定められており、Clausはこれを守っているが彼の眼の届かぬところでは二つの言語の間を行き来するのが実態である。

ホテルとWABとは同じブロックにあるので歩いて3分とかからない。朝食をしっかりと食べてから日の出前に到着、昼はノルウェーの習慣に従いコモンルームでパンを20分ぐらいで済ませる、日没後に帰館、それから街に夕食に降りていく、というのが日課である。我ながら良く働いたものである。

部分的な読み込みではあるがファイルを三本ほど日本から持参した。タイプ原稿をOCRで読み込み訂正を施したファイルはWABも第一次転記しか持っていないので後に優劣を比較することとした。手書き原稿の一本はすでにWABで転記・校正済みだったので、我々のものと照合してみた。残念ながら我々の方に誤りがはるかに多い。それでも、相手方の誤りをいくつか発見した。もう一本のファイルは我々を第一転記者としてWABに寄託することにした。タグ付けをしてもらった後、タグ付け、テキストの両方について私が入念な校正をしてハードコピーに朱をいれた上で、開発されたエディターを一日ほど動かして訂正を施す「実習」を行った。訂正原稿が作ってあるにも拘らずルースリーフ13枚分ぐらいしか処理できない。ネイティブスピーカーとの違いを実感した。もっとも、転記という仕事は彼らにとっても悩みがある、即ち、知性を必要とするものの仕事の成果が業績としては評価されないこと、日本流に言えば技官に分類される職種で研究の時間がないこと、夜間自分の勉強をするには疲れてしまうこと、である。

以上の仕事は、外部の利用者としての訪問研究者の枠を超えたものであるが、この枠内の仕事としては、訪問研究者用のパソコンを使って仕事をした。即ち、私がウィトゲンシュタインの著作をかつて日本語に訳した時の疑問点がどれだけ解消できるかを確かめてみたのである。次に訪問した時にどれだけの問題が処理できるか現状のリストを作ったことはいうまでもない。

可能な共同研究の形としては、転記そのものはWABに委ねて我々はモニターに徹するのがよいと考える。ヨーロッパ語のテキストを日本でせつせと入力して公開可能な形にまで仕上げるのは、一般的に言って無駄が多い。他方、作成段階の成果を使用して誤りの発見、ソフトの改良の提案等は十分可能だと考える。特に、刊行が開始されるシュプリンガー社版『ウィーン版 ウィトゲンシュタイン』の予告巻に見いだされるミスを考慮すれば十分すぎる校正が必要になる。この認識ではClausと一致したが、遺稿管理人や出版社との協議を必要とする事柄であり、現在その進展を見守っているところである。

ベルゲンはノルウェー第二の都会、かつてハンザ同盟の商館がおかれた港町、等と大阪と似ているところもないわけではない。初めの週末には水族館を訪れた。また大阪との違いは山に囲まれて

いる点にある。最後の週末にケーブルで一つの山に上がってみたが「写真のとおり」綺麗な光景だった。晩秋の晴れた日に町からたちのぼる温気の靄で美しかった。

ベルゲンは思ったより暖かった。真冬の京都の寒さを思えばよい。TVで見るオスロは冬の札幌である。二度目の週末にオーストリア人の女性をエスコートしてウィトゲンシュタインの聖地ショルデン迄赴いたがこれは寒かった。帰路バスで山越えをしたがアイスバーンですれ違う車は陸軍の雪上車ばかりであった。不凍港ベルゲンがノルウェーの例外であることに思い至ったのである。

ノルウェー語は上達しなかった。二年前に一週間スウェーデンを訪問した時にスウェーデン語をかじったのでスカンジナビア語の見当はつくが本業に忙しかった。辞書と文法書を頼りに講演の冒頭のご愛敬の挨拶を作れる程度である。朝のTVはドイツの放送かCNNである。夜は疲れはてている。

日本料理店が一軒あったが「日本兼タイ料理」という店で刺身が寿司桶ででてきたのには驚いた。日本人の板前が仲たがいしてやめた結果とのことである。「上海神戸」という名の中華料理屋で「またどうぞお越し下さいませ」というコンテクストとしては古風な中国人の日本語を聞いた。これとは別に三時間ほど日本語を話す機会があったが、相手は本学文学部の日本学科で修士課程を修了した女性である。実に流暢な日本語で、特有な言い回しが一つ二つあるがこれは我々にもみられるイディオシンクラシーの範囲内である。世界は広いようで狭いものである。

(おく まさひろ 人間科学部人間科学基礎論講座担当教授)

## 法学部所蔵日本近代法史関係資料について

中尾 敏 充

法学部日本法制史講座では、前々任者故熊谷開作教授（本学名誉教授）および前任者山中永之佑教授（本学名誉教授）によって、日本近代法史関係の資料が比較的多く収集・所蔵されてきた。この欄では、これらの資料のうち、最も基本的な立法資料の一部について紹介する。

明治維新によって日本は近代化＝資本主義化への道を歩み出したが、維新政権にとって最大の課題は、日本を欧米の先進近代国家と対等な国にするため、国家権力を統一・強化し、不平等条約を改正することと、そのために国家の財政的・経済的基盤を確立することであった。これがいわゆる「富国強兵」政策・「殖産興業」政策として展開されるものである。他方、これらの政策は「有司専制」と批判される専制的統治の方式で展開されていった。この展開過程で、明治国家の支配的基盤をゆるがす自由民権運動が登場することとなる。明治国家は、これらの二つの課題に対応すべく、法制度の形成・整備に取りかかった。すなわち、日本におけるこの時期の法体制の形成は、不平等条約改正の課題と自由民権運動に対応する課題とを達成する方向でなされていったのである。

この過程で、実に多くの中央法令が制定・公布されていった。封建的・身分的諸拘束の撤廃、移住・職業の自由、戸籍法、田畑永代売買の解禁、貨幣制度の統一、学制の公布、徴兵令、地租改正と秩禄処分、地方制度、各官制など、様々な分野に及んでいる。

これらの中央法令の立法趣旨や意思決定過程を明らかにする資料が各官庁で起案・作成され、または受付された文書であり、かつ決裁の済んだ文書である。

このような資料として、『公文録』（明治元年～明治18年）、『太政類典』（慶応3年～明治18年、

15年以降「公文類聚」と名称変更される）、『公文類聚』（明治19年～昭和29年）、『公文雑纂』（明治19年～昭和25年）、『法規分類大全』（慶応3年～明治23年）などがある。

原本は国立公文書館に所蔵されており、本法学部には、『公文録』（572リール）と『公文類聚』（347リール、373リール）（明治15年～昭和20年）のマイクロフィルム、および『法規分類大全』（全75巻）が所蔵されている。

とくに、『公文録』は、決裁原議がそのまま綴られており、当時の明治政府である太政官の意思決定過程がつぶさに追跡できるという特長を有している。すなわち、決裁の方法は稟議制と呼ばれ、太政官制下では各省卿、参議、大臣、元老院、天皇などさまざまなファクターが介入して最終的な意思決定がなされる。したがって、どこで、どのような趣旨・理由で起案・作成され、どの段階で、どのような理由で修正されたのかなどを究明することができるのである。

帝国議会開設前においては、重要な法令は元老院（明治8年設置）の審議にかけられた。『元老院会議筆記』（全36巻）（明治9年～明治23年）は、元老院議官が関わった縦横の議論、議決した案件、上奏した意見書などが収録されており、その審議を検討することによって、法令の立法趣旨および問題点などを明らかにすることができる資料である。関連資料として、『元老院日誌』（全4巻）がある。

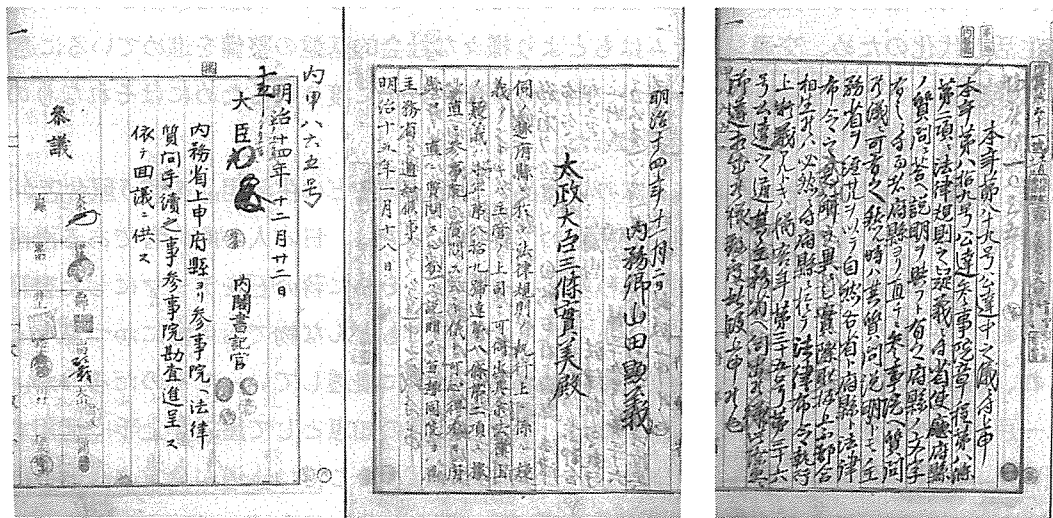
帝国議会開設以後、法律に関しては、帝国議会の「協賛」が大日本帝国憲法第37条によって必要とされ、衆議院および貴族院で審議された。この審議内容は『帝国議会衆議院議事速記録』（全86巻）（明治23年～昭和21年）、『帝国議会貴族院議事速記録』（全74巻）（明治23年～昭和21年）、『帝国議会衆議院委員会議録』（明治期全72巻〔本館書庫〕、大正期全50巻）、『帝国議会貴族院委員会速記録』（明治期全28巻〔本館書庫〕）『帝国議会貴族院委員会議事速記録』（大正期全28巻）、『帝国議会貴族院委員会会議録』（大正期全22巻）に収録されている。これらは、いずれも国務大臣および議員の演説や質疑応答、討論などの議事を片言隻句にいたるまで細大漏らさず“生のまま”正確かつ詳細に速記したものである。

勅令のうち重要なものに関しては、枢密院の諮詢を必要とした。『枢密院会議議事録』（明治期全15巻、大正期全27巻、昭和期全54巻）および『枢密院委員会録』（国立公文書館所蔵）がその審議内容を収録している。

さらに、法案の起草に重要な役割を果たした官僚・政治家の文書が存在する。これらの文書は、法案の起草にかかわった人物および法案制定に重要な役割を果たした人物が所有していた資料であり、法案がどのような経緯で起草され、どの国の法制が参照されたかなどを明らかにする第一級の資料である。国立国会図書館憲政資料室には、当該政治家の名を表し一括して、家わけ文書として所蔵されている。

明治前期において、法制官僚として重要な役割を果たした井上毅の文書が国学院大学図書館に所蔵されている。このうち、一部が『資料編 井上毅傳』（全6巻）、『井上毅傳外篇 日本近代法制資料集』（全20巻、一部未刊行）として刊行されている。さらに、マイクロフィルム『悟陰文庫 井上毅文書』（94リール）がある。この資料内容は、司法制度、地方制度、外交案件、官制、皇室制度、憲法制度、税制、理財、実業制度、教育制度、陸海軍制度にわたる膨大で、貴重なものであり、「真に明治国家のグランド・デザインの精髓」といわれるものである。

他に、マイクロフィルム『江藤新平関係文書』（17リール）、マイクロフィルム『岩倉具視関係文書』（65リール）、マイクロフィルム『明治前期地方自治制刊行物集成』（82リール）などがある。



(史料『公文録』)

(なかお としみつ 法学部法学科日本法制史講座担当助教授)

### 国際交流事業（中国訪問）に参加して

岩 淵 恭 幸

(財)大阪大学後援会の国際交流事業の一環として中国の大学・研究機関などを訪問し交流を深めることが企画され、7人で構成された訪中団の一員として中国を訪れる機会を得た。「大阪大学学報」に掲載予定の報告書作成を仰せつかったこともあり、それと重複しない幾つかのことについて感想めいた体裁で記すことにする。

旅程は10月30日から11月6日の8日間。経済発展の勢い盛んな上海では、上海医科大学と中国科学院上海有機科学研究所、三国志の舞台である成都では、華西医科大学と四川大学を訪問した。北京で訪れる予定だった中国科学院は、急遽上海で訪問していたためここでの公式訪問先はなくなっていた。そこで打合せの結果、団長の米田先生が北京医科大学を訪問し、他のメンバーは中国の歴史と現在を知る「実地研修」をすることに決定。訪問先では概要説明を受けたり、留学などの国際交流を巡って懇談したりすることに多くの時間が割かれたことから、図書館に立ち寄る時間や機会は得られなかった。

訪れた三つの都市は、いずれも郊外を含めると一千万人を超える人口を擁する街で、繁華街や目抜き通りはどこからこんなにも沸き出てくるのかと思われるほどの人、人、人で溢れ返っている。北京中心部の道路は人と車とが区分されていたが、それ以外の所では混合交通とでもいおうか、人、車輛などがそれぞれの必要に応じて勝手に往来し、押し合い圧し合いの観を呈していた。しかし、道路を区分して通行することを義務付けた規則はあるのだそう。そこでは、人が歩き、自転車・バイクが走り、リヤカー・荷車がゆっくり通る。自動車やトラクターのような運搬車輛が走り、馬車も通る。牛や駱駝が引かれている光景も目にした。これらが同時にかつ大量に混ざって動く様はまさに壮観である。当然事故は多いと聞いたし、事故現場も何度か見かけた。街中では終日、あち

らこちらで騒々しいほどに警笛が鳴り響いている。一旦交通渋滞が始まると、これはもうひどいもので、この時に最も力を発揮するのが自転車である。いつまでもこの状態を放置してははいられない。都市生活近代化のため、交通システムはもとより様々な社会的基盤の整備を進めているに違いない。何事も経験と広い道路を横断してみたが、当たらず轢かれずに渡り切るためにはそれなりの骨があり、加えて我々外国人には度胸が必要だった。

また、道路や歩道は自由な市場にもなり、食品、衣類、靴などの生活用品を商う屋台店が連なり、床屋や按摩業も空の下で開かれる。商売柄覗いて見た本屋では、日本人が原作者である漫画本や、日本ではさして目新しくもなくなったようなビニ本の類、それに蒋介石をテーマにした書籍等々が並べられてあった。ここではどんなルートで入ったものでもどんな物でも自由にかつ堂々と取り引きされ、国策には関係なく生活に役立つものは暮らしの中に浸透していつてるのだろうか。都市部では一戸当たりの住居面積が非常に狭いため、市民は生活の知恵として屋外を上手く活用するのだと聞いた。商業地のメインストリートから一つ中に入れば、そこでは歩道が食堂の食事提供の場所になったり、休日には人々が集まってカードゲームに興じたり、日向ぼっこ、うたた寝をしたりしている。

旅の途中でこのような彼らの生活振りの一端を垣間見たにすぎないが、そこには極めて開放的で楽観的な、ある種の逞しさがあるように感じた。ただ、一つ困ったことがあった。それは、中国人団体客が我々の部屋のすぐ近くに泊まったときのことだったが、彼らはドアを開け放して廊下を挟んだお向かいさん同士、部屋の中と部屋の中とで声高に会話し合うのである。まさに開放的逞しさそのもので、気の弱い私などはたちどころに隅へ追い遣られてしまいそうな勢いがある。翌朝のためにセットしておいた目覚まし時計は要らなかった。

中国では凶悪犯罪は少ないそうだが、度々ガイドさんからスリ・置き引きの災難に遭わぬよう注意を促された。万里の長城でのことである。親切にも日本語で書かれた看板が掛かっていて、そこには「すりを注意」と書かれてあった。言わんとする意味は十分伝わってくるが、どうも落ち着きが悪い。「すりを注意」の適否を国文法に照らして云々する意図は毛頭ないが、私の言葉の感覚からすると、この場面では「すりに注意」といきいたいところである。また、日本で見かけるこの手の多くは「何々に注意」のような気もする。他の所でも日本語で書かれたものを目にしたり、貰ったりしたが、その中には手を入れなければ正しい日本語にはならない箇所を含んだ文もあった。考えてみれば、私達も以外に同じようなことをしているのではないだろうか。例えば、英文の図書館案内を作ったり、案内表示を出したりするとき、冠詞、前置詞、単・複数形、或いは同義語の用い方の一つの違いで「すりを注意」の類になったりしてはいまいか。これは私にとって、長城の石ならぬ“他山の石”であった。「すりを注意」と「すりに注意」という言葉を巡る問答は、その方面に詳しい方々に任せたいということで、ここはひとつ逃げを打つ。

観光・行楽にはお土産屋、という取り合わせは日本と同じ。客が日本人と見ると、なんとしてでも売らんかなの勢いで、ただ見て歩いているだけの私に、二、三人の店員さんがずっと付いて歩き「これはとてもいい品」「いない」「それじゃこっちは」というような熱心さである。ある駐車場で、絵葉書売りの青年が「10枚400円」と言ってきたので、「いない」と言うと帰って行く。すぐに戻って来て、「10枚200円」ときた。数秒の間に半額である。これは買わなかったが、その後の買い物で値切り交渉をする際にこの手を応用させていただいた。

田舎の父が旧満州で戦友達とよく飲んだ酒、と聞いていた高粱酒を探したがなかなか見つからない。ガイドさんの「出回っている数は少ないけど必ずあるよ」という言葉に一縷の望みを託し更に

探す。北京最後の日に立ち寄ったスーパーでついに見つけた。それは直系 25 センチほどの丸い金魚鉢に徳利をくっつけたようなガラス瓶に入っていた。これは馬の尿瓶だ。しかし中身は透明で済んでいる。人間の尿瓶はないものかと尋ねたが、これしか無いという。これは大き過ぎるし、飛行機内で割れでもしたら大変なことでは済まなくなる。頑丈にパッキングして貰うか、適当な空瓶に詰め替えるか。しかし、ガイドさんは空港到着時刻に合わせるため後の行動を急いでいる。ここは諦めるしかなかった。酒は飲んで酔わなければ知識にならないものだと、そう信じ切っている私には心残りである。

北京空港では最後の脱換券を使って、安物だが定年まで使えそうな柄と思われる一本のネクタイを買い求めた。中国旅行の諦め括りという洒落のつもりも半分あったが、中国から仕事でお客様が来館するときには、これを諦めて出勤しようとも思った。そうすれば口下手で話題に乏しい私にも、今度の経験をお客さんとの共通の話題として会話を進めることができるだろうし、またそれによって私の国際交流がまだまだ続くことにもなるだろうという安易にして分不相応な魂胆からである。もっとも、その会話とは通訳者を介してのことになるが。

この旅行では一見の価値ある数多くの名所旧跡を見て回り、一人で旅したならば到底なし得ない見聞、体験を重ねることができた。これはご自身の研究に関して幾度も中国を訪れたことのある米田先生が、その経験を基に旅程全般にわたってアドバイスして下さったことと、珍しいものを目にするたびに語って聞かせて下さったことによるものと心から感謝している。また、阪大にいながら初めて顔を合わせ行動を共にしてくれた事務官の方々からは、旅先で生じた問題の解決、折衝などに仕事で培った力量を遺憾無く発揮される姿を拝し、多くのことを学ばせていただいた。ご厚情を多謝します。

(いわぶち やすゆき 附属図書館情報管理課図書館専門員)

## 教官著作寄贈図書

### 一本 館一

岡田 光正 (工・名誉教授)

住宅の計画学

岡田 光正他共著

(鹿島出版社 1993)

森本 兼曩 (医・教授)

Quality of life : 臨床研究における評価

Quality of Life 研究会訳

(森本 兼曩、丸山総一郎他)

(丸善 1993)

岡田 光正 (工・名誉教授)

空間デザインの原点

岡田 光正著

(理工学社 1993)

増原 宏 (工・教授)

マイクロ化学 : 微小空間の反応を操る

増原極微変換プロジェクト編

(化学同人 1993)

### 一生命科学分館一

大山 良徳 (健体・教授)

学校保健用語辞典

大山 良徳他編著

(東山書房 1993)

谷口 直之 (医・教授)

がんのベーシックサイエンス

Ian F. Tannock & Richard P. Hill 著

谷口 直之監訳

(メディカル・サイエンス・

インターナショナル 1993)

- 中村 隆雄 (理・名誉教授)  
酵素のはなし：生命を支えるその精巧な  
はたらき  
中村 隆雄著  
(学会出版センター 1986)
- 中村 隆雄 (理・名誉教授)  
酵素キネティクス  
中村 隆雄著  
(学会出版センター 1993)
- 荻原 俊男 (医・教授)  
分子高血圧学  
荻原 俊男編  
(南山堂 1994)
- 河村洋二郎 (歯・名誉教授)  
口と生活  
河村洋二郎著  
(財団法人口腔保健協会 1994)
- 吹田分館—
- 鳴海 邦碩 (工・教授)  
神々と生きる村 王宮の都市  
鳴海 邦碩他編著  
(学芸出版社 1993)
- 大中 逸雄 (工・教授)  
Freezing and melting heat transfer in  
engineering: selected topics on ice-  
water systems and welding and casting  
processes.  
K.C. Cheng et al. (ed.)  
大中 逸雄他執筆  
(Hemisphere Pub. 1991)
- 正木 明 (工・非常勤講師)  
文学的存在論  
正木 明著  
(紀伊國屋書店印刷 1989)
- 正木 明 (工・非常勤講師)  
文学と科学の共鳴—キーワードはカオスと  
脳—  
正木 明著  
(幻想社 1994)
- 仲田 周治 (工・教授)  
抵抗溶接現象とその応用 I：スポット溶接・  
上 (溶接学会技術資料 No. 7)  
溶接学会抵抗溶接研究委員会編  
仲田 周治、松山 欽一他執筆  
(溶接学会 1982)
- 仲田 周治 (工・教授)  
抵抗溶接現象とその応用 I：スポット溶接・  
下 (溶接学会技術資料 No. 8)  
溶接学会抵抗溶接研究委員会編  
仲田 周治、松山 欽一他執筆  
(溶接学会 1983)
- 仲田 周治 (工・教授)  
抵抗溶接現象とその応用 II：重ねプロジェ  
クション溶接・突合せプロジェクション溶  
接・アプセット溶接  
(溶接学会技術資料 No. 9)  
溶接学会抵抗溶接研究委員会編  
仲田 周治、西川 雅弘他執筆  
(溶接学会 1981)
- 仲田 周治 (工・教授)  
抵抗溶接現象とその応用 III：重ねおよび突  
合せシーム溶接  
(溶接学会技術資料 No. 10)  
溶接学会軽構造接合加工研究委員会編  
仲田 周治他執筆  
(溶接学会 1989)
- 仲田 周治 (工・教授)  
抵抗溶接現象とその応用 IV：クラッシュ溶  
接 (溶接学会技術資料 No. 11)  
溶接学会軽構造接合加工研究委員会編  
仲田 周治、松山 欽一他執筆  
(溶接学会 1993)



## —理学部図書室—

小林 雅通 (理・教授)

Crystallization polymers; Proceedings of the NATO Advanced Research Workshop on Crystallization of Polymers Mons, Belgium September 7-11, 1992. (NATO Advanced Science Institutes Series. Series C: Mathematical and Physical Sciences. Vol. 405)

M. Dosière (ed.)

Contributors, Masamichi Kobayashi et al.

(Kluwer Academic 1993)

池谷 元伺 (理・教授)

New applications of electron spin resonance, dating, dosimetry and microscopy

Motoji Ikeya

(World Scientific 1993)

## ■■■■ 会 議 ■■■■

## 図書館委員会

5. 12. 10 (金) 10:00~12:13 (本館会議室)

1. 土曜開館について審議し、本館が平成6年度から実施することになった。
2. 本館新築基本計画案について審議した結果、部局へ持ち帰り検討することとなった。
3. 外国雑誌の購入方法について審議し、原案どおり承認された。
4. 教養部の改組に伴う諸規定について審議した結果、継続審議となった。

## 豊中地区運営委員会

5. 12. 15 (水) 13:30~15:00 (本館会議室)

1. 本館の土曜開館の実施について審議した。
2. 本館新築計画案について審議した。
3. 豊中地区運営委員会規定の改正について審議した結果、継続審議となった。
4. 豊中地区図書選定小委員会設置要項の改正について審議した結果、継続審議となった。
5. 学術雑誌目次速報データベースについての概略説明があった。
6. 外国雑誌の購入方法について承認された。
7. 平成6年度高額参考図書の購入計画について審議し、原案どおり承認された。

## 自己評価委員会

6. 2. 14 (月) 9:30~10:20 (本館会議室)

1. 大阪大学附属図書館自己点検評価報告書について協議し、原案どおり承認され、年次報告と合冊とすることとなった。

## 分館長会議

6. 2. 14 (月) 10:25~11:58 (本館会議室)

1. 本館新築基本計画案について審議した。
2. 教養部の改組に伴う諸規程について審議した。

3. 自然科学系特別図書の収書方針について審議した。

#### 図書館委員会

6. 2. 15 (火) 10:05~11:50 (本館会議室)

1. 本館新築基本計画案について審議し、原案どおり承認された。
2. 教養部の改組に伴う諸規定について審議し、原案どおり承認された。
3. 自然科学系特別図書の収書方針について審議し、原案どおり承認された。

#### 生命科学分館運営委員会

5. 12. 14 (火) 10:00~11:50 (生命科学分館会議)

1. 生命科学分館資料費部局分担比率について協議され、各部局で検討願うこととなった。
2. 図書選定小委員会において平成5年度生命科学分館備付図書について協議した報告があり、了承された。

#### 生命科学分館運営委員会

6. 2. 4 (金) 10:30~11:50

1. 生命科学分館資料費部局分担比率について、各部局での検討結果が報告され、次回の運営委員会で結論を出すこととなった。

#### 吹田地区運営委員会

6. 1. 19 (水) 10:30~11:40 (吹田分館会議室)

1. 平成6年度のCD-ROMソフト購入について、原案どおり関係部局で分担購入することが了承された。
2. 土曜開館について、開館するための予算を確保し、その結果本館の開館状況をみながら再度検討することとなった。
3. 資料搬送業務の対応について、外部委託のための予算要求を行う。その結果、予算設置ができなかった場合は、学科図書室等から資料を取りにくくともやむを得ないということが了承された。最終的な対応については、事務部に一任することが了承された。

### ■■■■■ 報 告 ■■■■■

#### 研究室等からの蔵書検索システム利用説明会の開催について

学内の研究室や図書室から電話回線を利用して図書館に接続する蔵書検索システムの説明会が、1月25日(火)10:00から12:00まで、図書館会議室で開催されました。今回は本館関係部局の利用者を対象に行われ、教官、職員、院生の計31名の参加がありました。

説明会は、最初に検索システムの概要と検索に必要な準備の説明があったあと、実際にパソコンを使用してホストに接続し、その画面をスクリーンに投影しながら検索例を解説する方法で行われました。

出席者の感想は概ね好評でした。説明後の質疑応答では、コマンドの使い方や検索語の形に関す

る質問のほかに、大型計算機センター経由で図書館に接続できるようにしてほしいという要望や、予算の関係から電話回線を増設できない問題（現在の回線を検索と併用するのは難しい）などの指摘もありました。

今後も、このような説明会を開催していきたいと思います。なお、このシステムについての概要の紹介が本館報の Vol. 26, no. 2 にありますのでご覧ください。

## ■■■■■ お知らせ ■■■■■

### 住居表示の変更について

豊中地区各部局の住居表示が平成6年4月1日から変更になりますので、附属図書館の関係分についてお知らせします。

部	局	新住居表示	旧住居表示
附属図書館本館		豊中市待兼山町1-4	豊中市待兼山町1-1
理学部（理学情報掛）		（変更なし）	
基礎工学部（基礎工学情報掛）		豊中市待兼山町1-3	

### 本館における土曜開館の実施について

本館では平成4年5月から土曜閉庁にともない土曜日は閉館していましたが、利用者の学習・教育・研究の便宜をはかるため、平成6年4月から、土曜開館を実施することになりました。開館時間は12時から17時まで、サービス内容は、館内閲覧（開架図書室と書庫棟）のみです。

なお、夏季などの授業休業期間は休館となります。

### 英国オープンユニバーシティ・ビデオ集成 （自然科学分野）の購入について

平成5年度の特別図書（自然科学系）として、標記資料を購入することになりました。

英国オープンユニバーシティは、大学の課程を市民に開放するため1969年に開校され、テレビ・ラジオをはじめとする各種メディアの組合せによる教育を世界に先駆けて展開してきた大学です。同大学制作の教材ビデオは世界的に定評がありますが、今回、別表のとおり自然科学分野の433巻を購入し、夏休みまでには利用できる見込です。学生諸君の自学自習に、先生方の授業の教材に、また英語学習にと幅広く活用されることを期待しております。

なお、特別図書（自然科学系）は、自然科学系の教育・研究に必要な学内の予算措置が困難な大型資料について収書計画を策定し、文部省の審査を経て予算化されるもので、平成5年度、新設されたものです。

## 英国オープンユニバーシティ・ビデオ集成 自然科学分野 内訳

型番	シリ	ズ	名	制作年	仕様	巻数
A281	Technology and change 1750-1914	工業技術の変化 1750-1914		1985	2ヶ国語版	10
A282	Science, technology and everyday life, 1870-1950	科学技術と日常生活 1870-1950		1990	2ヶ国語版	8
A381	Science and belief ; from Darwin to Einstein	科学史講座II		1982	2ヶ国語版	6
M101	Mathematics ; A foundation course	数学基礎講座		1989	英語版	31
M203	Introduction to pure mathematics	純粋数学入門		1991	英語版	30
M335	Studies in pure mathematics	位相幾何学		1984	英語版	8
MA290	Topics in the history of mathematics	数学史のトピック		1988	英語版	8
MDST242	Statistics in society	統計学実践講座		1985	英語版	8
MST204	Mathematical models and methods	数学的モデルと方法		1982	英語版	29
S102	A science foundation course	自然科学基礎講座		1989	2ヶ国語版	19
S203	Biology ; form and function	生物体の構造と機能 (改訂版)		1992	英語版	30
S236	Geology	地質学		1984	英語版	16
S238	The earth's physical resources	資源と開発		1985	英語版	17
S246	Organic chemistry	有機化学 (改訂版)		1992	英語版	8
S247	Inorganic chemistry ; concepts and case study	無機化学		1982	2ヶ国語版	10
S256	Matter in the universe	天体物理学講座		1986	英語版	6
S271	Discovering physics	基礎の物理学		1983	2ヶ国語版	16
S272	The physics of matter	物質の物理的性質		1987	2ヶ国語版	11
S298	Genetics	遺伝学講座		1988	英語版	10
S324	Animal physiology	動物生理学		1986	英語版	10
S325	Biochemistry and cell biology	生化学と細胞生物学		1987	英語版	12
S326	Ecology	生態学		1987	英語版	16
S330	Oceanography	海洋学講座		1990	英語版	9
S339	Understanding the continents	地球科学：大陸の理解		1991	英語版	16
S341	Photochemistry ; light, chemical change and life	光化学		1983	英語版	10
S342	Physical chemistry	物理化学：化学変化の原理		1986	英語版	8
S344	Organic chemistry	有機化学講座		1990	2ヶ国語版	11
S354	Understanding space and time	時間と空間		1980	2ヶ国語版	16
S364	Evolution	進化		1982	英語版	4
SD286	Biology, brain and behaviour	脳と行動		1982	2ヶ国語版	4
SM355	Quantum mechanics	量子力学講座		1987	2ヶ国語版	7
T101/2	Living with technology	テクノロジー基礎講座		1990	英語版	13
T234	Environmental control and public health	環境と公衆衛生		1986	英語版	4
T247	Working with systems	システムの思考と利用		1992	英語版	4
T281	Basic physical science for technology	工業技術への基礎物理		1985	2ヶ国語版	8

(注) 2ヶ国語版は、英語/日本語版

## CD-ROM データベースの追加について

附属図書館本館で検索できる CD-ROM に新たにデータベースが追加されました。

Business Periodicals Index で、1982年7月から1993年12月までの分が収録されています。以後月1回更新される予定です。

これは、世界の英文刊行物304誌をソースとする文献情報のCD-ROM版で、ビジネス全般を対象とし、貿易や調査レポートも収録されています。主な分野は広告・マーケティング・銀行・金融・建設・経済・コンピューター・エンジニアリング・労働衛生安全・国際ビジネス・不動産など幅広いものとなっています。

## ■■■■■ 日 誌 ■■■■■

5. 12. 7	近畿地区国公立大学図書館協議会主題別研究集会	(京都大学)
5. 12. 10	図書館委員会	(本館)
5. 12. 13	図書館情報システム特別委員会 ILL 専門委員会	(生命科学分館)
5. 12. 14	生命科学分館運営委員会	(生命科学分館)
5. 12. 15	豊中地区運営委員会	(本館)
6. 1. 19	吹田地区運営委員会	(吹田分館)
6. 1. 19~20	国立大学附属図書館事務部長会議	(横浜市)
6. 1. 28	近畿地区国公立大学図書館協議会主題別研究集会	(生命科学分館)
6. 2. 4	生命科学分館運営委員会	(生命科学分館)
6. 2. 9	近畿地区国公立大学図書館協議会シンポジウム	(京都大学)
6. 2. 14	自己評価委員会	(本館)
6. 2. 14	分館長会議	(本館)
6. 2. 15	図書館委員会	(本館)
6. 2. 15	図書館情報システム特別委員会 ILL 専門委員会	(生命科学分館)

## ■■■■■ 人 事 ■■■■■

移動前の所属・職名	氏名	異動内容	発令年月日
	大谷 京子	(採用) 事務補佐員 医学情報課図書目録情報掛	6. 1. 1
事務補佐員 医学情報課図書目録情報掛	上山 欣子	(退職) 辞職	5. 12. 15

